

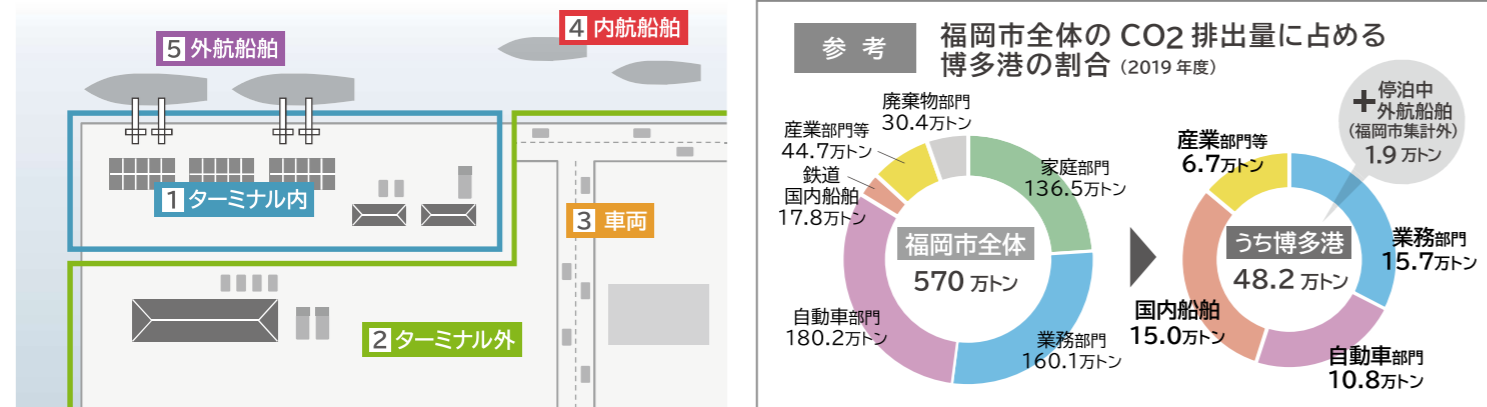
温室効果ガスの排出状況

市域の温室効果ガス排出量の約9割を占めるCO2を対象に、基準年度(2013年度)と現状(2019年度)の排出量を算定しました。

区分	説明	基準年※2(2013年度)	現状値※2(2019年度)	削減率
1 ターミナル内※1	コンテナなどの港湾ターミナル内の貨物の積み下ろしなどの活動からの排出	1.1万トン	0.8万トン	▲27%
2 ターミナル外	臨港地区に立地する事業所等からの排出	25.5万トン	21.6万トン	▲15%
3 車両	臨港地区の車両からの排出	10.8万トン	10.8万トン	0%
4 内航船舶	博多港に寄港する内航船舶からの排出	11.5万トン	15.0万トン	31%
小計 1~4		48.8万トン	48.2万トン	▲1%
5 外航船舶	博多港に寄港する外航船舶からの排出	1.4万トン	1.9万トン	32%
合計		50.2万トン	50.0万トン	0%

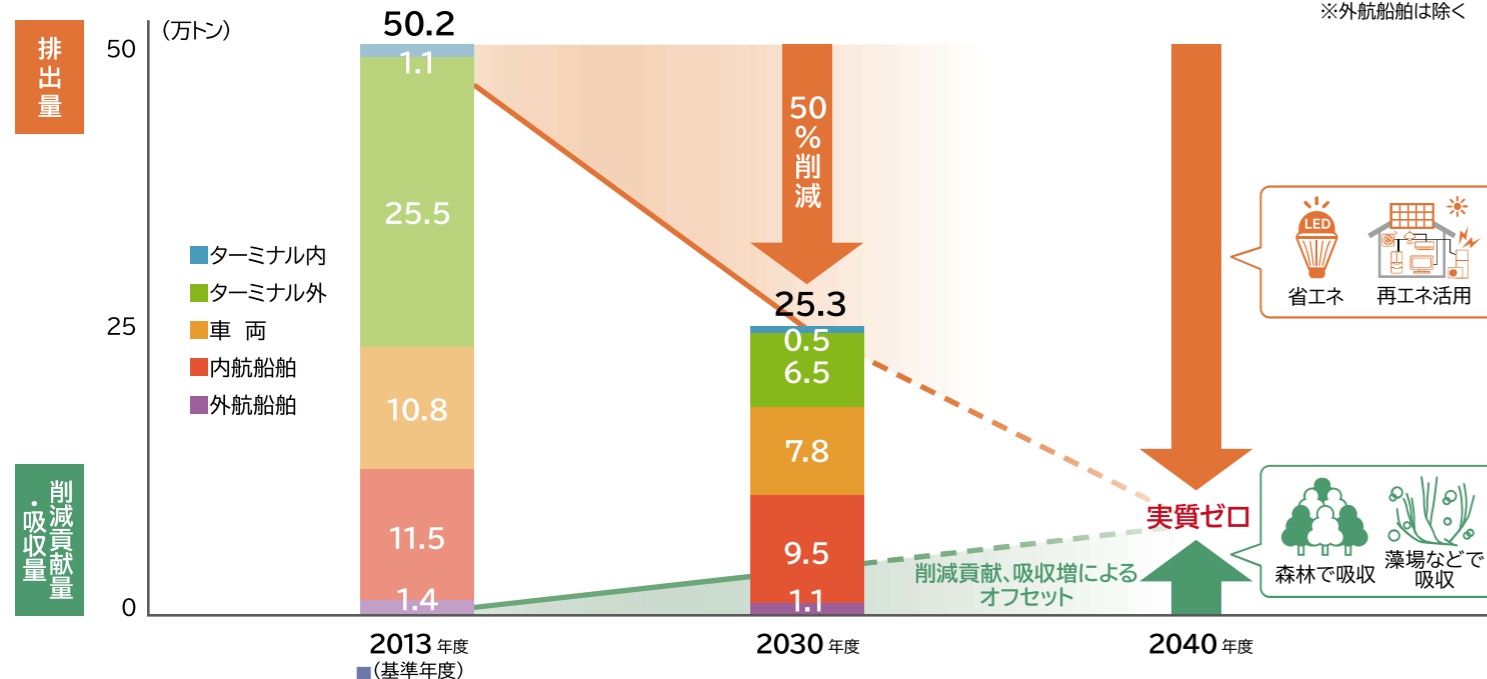
※1 対象地区:アイランドシティ・香椎パークポート(コンテナターミナル)、中央ふ頭(国際旅客ターミナル(博多港国際ターミナル、クルーズセンター)、中央ふ頭コンテナヤード)

※2 端数処理の都合上、合計と内訳の計が一致しない



計画目標

- 1 2030年度 目標: **50%削減**(2013年度比)
- 2 2040年度 目標: **実質ゼロ**



お問い合わせ

福岡市 港湾空港局

港湾計画部 計画課

TEL 092-282-7082

FAX 092-282-7771

福岡市博多区沖浜町 12-1 博多港センタービル 8階

E-mail keikaku.PHB@city.fukuoka.lg.jp

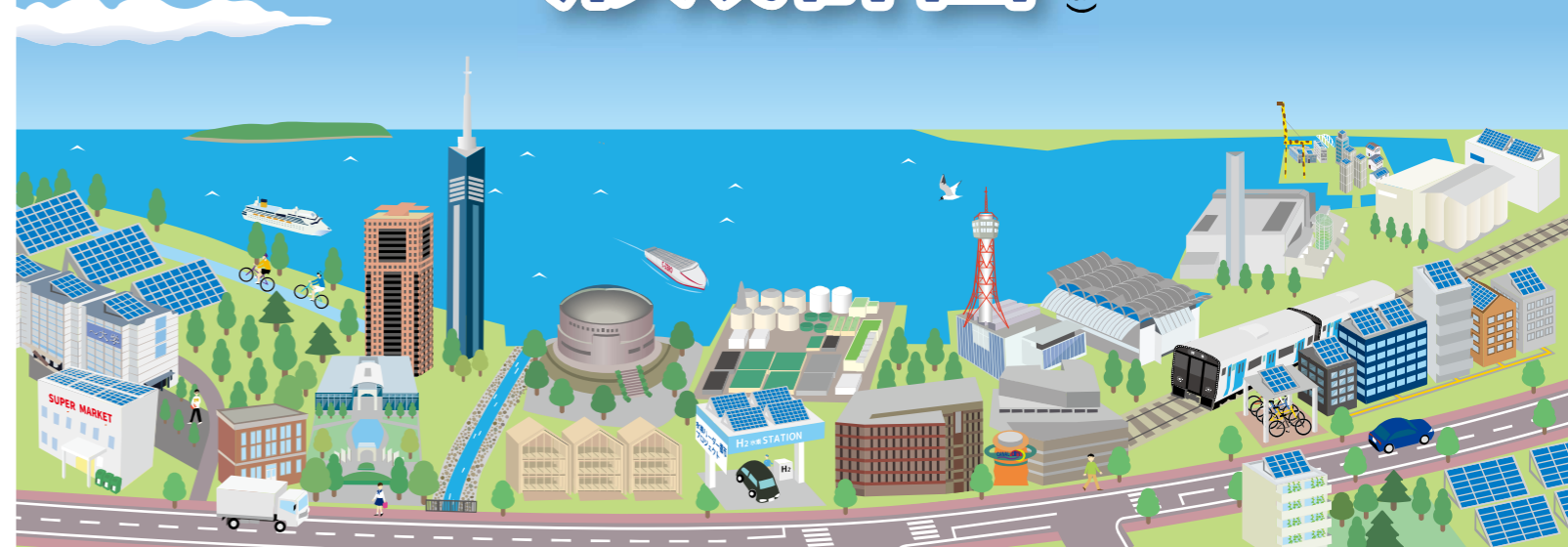
ホームページ <https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/keikaku/hakata-port/datsutanso.html>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



博多港 カーボンニュートラルポート 形成計画 (概要版)

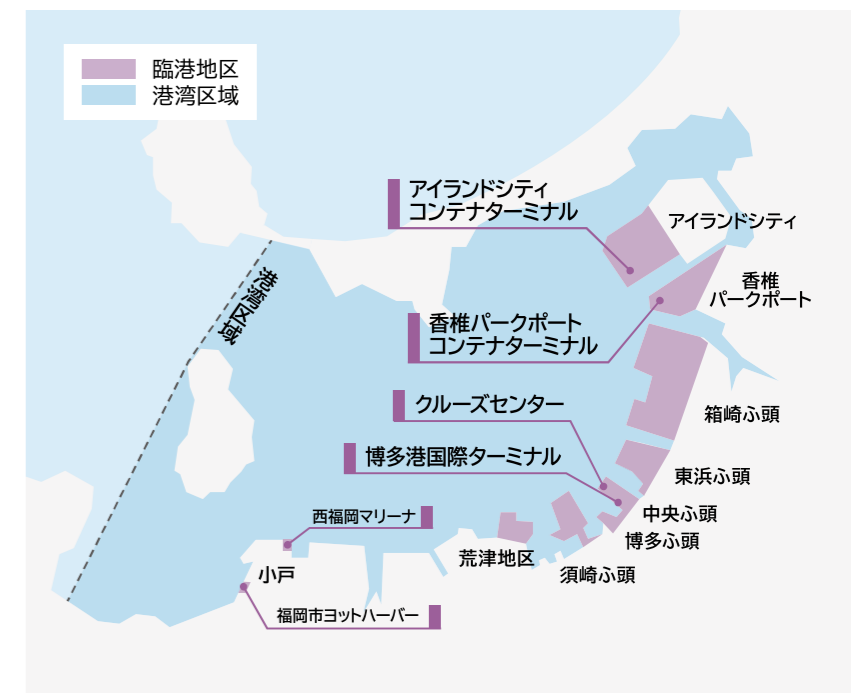


博多港 カーボンニュートラルポート 形成計画とは

本計画は、福岡市が掲げるチャレンジ目標「2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ」の実現に貢献すると共に、博多港の国際競争力の強化を図り、船社・荷主から選択される港湾を目指していくため、脱炭素化に関する具体的な取り組みなどについて定め、官民で連携し、カーボンニュートラルポートの形成の推進を図ることを目的に策定するものです。

計画範囲

臨港地区及び港湾区域を本計画の対象範囲とします。



2030年度目標の達成に向けた主な取組み (CO2削減量は2019年度比)

ターミナル内



- 荷役機械(ストラドルキャリア等)の脱炭素化の検討
- 構内トレーラーヘッドの低炭素・脱炭素化
- ヤード照明のLED化
- 電力の低炭素・脱炭素化
 - ・設備の省エネ化や再生可能エネルギー由来電力への切替

CO2
▲0.3万トンの削減

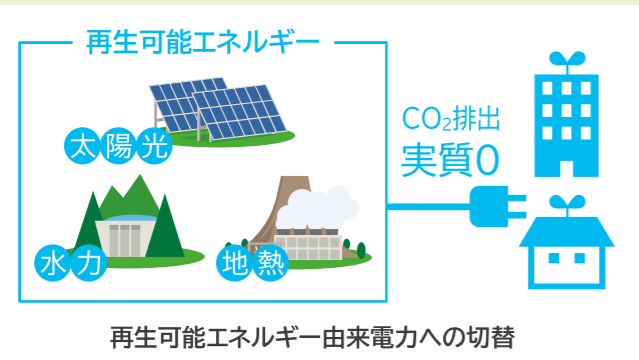


出典：
博多港ふ頭株式会社

ターミナル外



- 市所有施設(上屋、道路照明等)における脱炭素化
 - ・再生可能エネルギー由来電力への切替
 - ・道路照明灯のLED化
 - ・太陽光発電設備の設置
- 民間事業所(倉庫、物流施設等)における脱炭素化
 - ・再生可能エネルギー由来電力への切替
 - ・建築物の省エネ化
 - ・省エネ設備の導入
 - ・太陽光発電設備の設置



CO2
▲15.1万トンの削減

車両



- 輸送の効率化
 - ・エコドライブの推進
 - ・共同輸配送の実施
- EV・水素ステーションの整備
- 車両の低炭素・脱炭素化
 - ・低炭素型ディーゼル車やバイオ燃料※1の導入
 - ・電動車(EV、FCV等)の導入

CO2
▲3.0万トンの削減

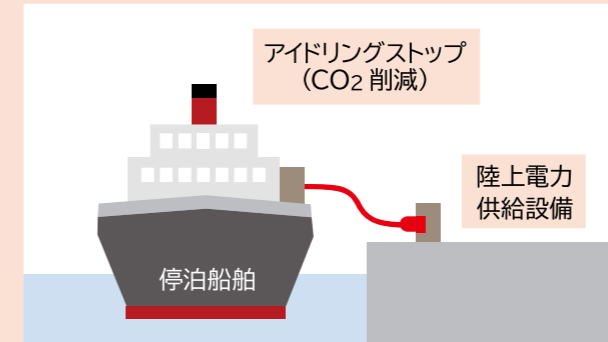


出典：
トヨタ自動車株式会社

内航船舶



- 船舶の停泊時アイドリングストップ
 - ・船舶への陸上電力供給設備の整備
- 船舶燃料の低炭素・脱炭素化
 - ・省エネ船、バイオ燃料船、LNG燃料船、水素燃料船、バッテリー推進船の導入
- 船舶への燃料供給施設整備



CO2
▲5.5万トンの削減

外航船舶



- 船舶の停泊時アイドリングストップ
 - ・船舶への陸上電力供給設備の整備
- 船舶燃料の低炭素・脱炭素化
 - ・省エネ船、バイオ燃料船、LNG燃料船、水素燃料船、バッテリー推進船等の導入



CO2
▲0.7万トンの削減

水素



- 水素の活用、受入環境整備の検討

その他



- 脱炭素化を促すインセンティブ※2導入
 - ・環境配慮型船舶等に対するインセンティブ
- 海上輸送及び鉄道輸送へのモーダルシフトの推進
- 港湾物流の効率化
- カーボン・オフセット※3の推進
- 藻場の造成・保全等(ブルーカーボンの創出)



※1 バイオマス(生物資源)を原料とする燃料のこと。

※2 博多港の利用者のコスト軽減を図り、入港料、岸壁使用料などの港湾施設使用料の費用の全部または一部を減免等すること。

※3 日常生活や経済活動により排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの排出をまずできるだけ減らすように努力をした上で、それでも排出してしまう温室効果ガスの排出量を、他の場所での削減・吸収活動(削減・吸収量)により埋め合わせようという考え方。